

6 本時の目標と展開(授業① 1年1組)

(1) 本時の授業構想図

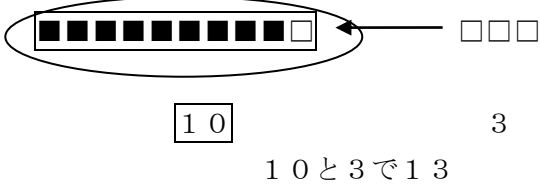
本時のねらい	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法について気付くことができる。
振り返り	『10のまとまり』をつくと計算しやすい。 『10のまとまり』ができるように数字を分けると(加数分解)簡単に計算できる。」
本時のバージョンアップされた考え	「9+4」でも「10のまとまり」をつくれれば計算が簡単にできそうだ。4を1と3に分けると「10のまとまり」ができる。
本時の「しなやかに考える子ども」の姿	『10のまとまり』をつくれれば分かりやすい。 「4を1と3にわければいい。10と3で13になる。」
しなやかさに欠ける子どもへの支援	答えが10より大きくなりそうだという見通しをもたせる。 9個と4個のブロックの色を変えて「10のまとまり」を考えやすくする。 ブロックケースを使って操作し「10のまとまり」を意識させる。
ギャップを乗り越えさせるための算数的活動	算数ブロックと算数ブロックケースを使い、色を変えながら「10のまとまり」をつくるために、もう一方の数を分解することを確認する。
ギャップ(違いやつまずき)	今までと違う。答えが10より大きくなりそうだ。
既習	繰り上がりのない1位数どうしの加法計算 和が10以内と和が10より大きい数(10と2で12など)
問題	ゆかさんは どんぐりを9こ、ひろしさんは4こ ひろいました。 あわせて なんこ ひろいましたか。

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 既習の加減計算や数の構成を基に、$9+4$などの計算の仕方を考えようとしている。 (関心・意欲・態度) $9+4$の計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて、10のまとまりに着目して考え、説明することができる。 (数学的な考え方) 	
評価の具体	十分満足と判断される状況	努力を要する状況の児童への手立て
	ブロック操作をしながら、 $9+4$ の計算の仕方を考え、4を1と3に分けて「10のまとまり」を作ると簡単に計算ができることに気付くことができる。	既習を想起させたり板書を示したりしながら、ブロック操作を繰り返し、「10のまとまり」をつくれればよいことに気付かせる。

(2) 本時の目標 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法について気付くことができる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動と予想される児童の反応	留意点（・）と評価（□） しなやかに考える子どもの姿（※）
つ か む 10 分	<p>1 未習の計算に関心をもつ。</p> <p>○カードを使って、たし算の式をつくりましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3個と2個だったから式は$3 + 2 = 5$ 答え5個。 ・ $2 + 1 = 3$, $4 + 5 = 9$は、習ったからできる。 ・ $9 + 4$, $3 + 8$はできない。習っていない。 <p>2 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ゆかさんは どんぐりを 9こ、ひろし さんは 4こ ひろいました。 あわせて なんこ ひろいましたか。</p> </div> <p>○式を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あわせて何個になるか」を答えるから、たし算。 ・ $9 + 4$ <p>○答えはいくつですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1, …, 9, 10, 11, 12, 13。全部で 13個。 ・ 10より大きくなる。 <p>3 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>$9 + 4$のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1から9までのカードを使ったたし算の式をつくり、既習の計算と未習の計算を整理する。 ・ $9 + 4$, $3 + 8$は答えが10を超えそうであること、計算の仕方をまだ学習していないことに気付かせる。 ・ 合併の問題場面から、加法が用いられる場面であることを確認する。 ・ これまでの加法とは違い、答えが10を超えることを確認しておく。 ・ ブロックを1つずつ数えることで、答えを確認し、安心させるとともに、計算の仕方を考えるという課題を明確にする。
考 え る 5 分	<p>4 自力解決をする。</p> <p>○どうやって答えを出したらいいかブロックを使ってやってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9から1ずつ数える。 ・ 「10のまとまり」をつくって考える。 ・ 「10のまとまり」をつくるために、4を1と3に分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 算数ブロックのケースを使って、10のまとまりを意識できるようにさせたい。9と4のブロックの色を変えて考えさせる。 <p>※(仮説1に関わって)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加数を1と3に分けて「10のまとまり」をつくとよいことをブロック操作をしながら考えさせる。 <p>『「10のまとまり」をつくれれば分かりやすい。』</p> <p>「4を1と3にわければいい。10と3で13になる。」</p> <p>関既習の加減計算や数の構成を基に、$9 + 4$の計算の仕方を考えようとしている。</p> <p>[観察・発言・ブロック操作]</p>

<p>つ く る</p> <p>15 分</p>	<p>5 学び合う。</p> <p>○$9 + 4 = 13$の答えをどのようにしてもとめたか、自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作  <p>○どうして4を1と3に分けたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10のまとまり」をつくといいからです。 ・「10といくつ」とかぞえるとわかりやすいからです。 <p>○気付いたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10のまとまり」をつくとわかりやすい。 ・4を1と3に分けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作をしながら説明させる。 ・友達のプロック操作や話したことは、どういことなのかを考えながら見たり聞いたりするようにする。 ・共通点（10のまとまり・4を1と3に分けている）を見付けさせる。 ・児童の発言をもとに大事な言葉は書き留めておく。また、○で囲んだり色分けしたりするなど「10のまとまり」や「分けること」が視覚的にも分かるように整理する。 ・児童の発言をもとに、黒板を振り返りながら$9 + 3$の計算の仕方をていねいにまとめていく。 ・4を1と3に分けた根拠を問い「10のまとまり」を意識させる。 <p>※（仮説2に関わって）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作をもとに、「10のまとまり」や「4を1と3に分ける」ことに気付かせる。 <p>『10のまとまり』をつくとわかりやすい。」</p> <p>「4を1と3に分けている。」</p> <p>考既習の加法計算や数の構成を基に、$9 + 4$の計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて、10のまとまりに着目して考えることに気付くことができる。</p> <p>[観察・発言・ブロック操作]</p>
<p>ま と め る</p> <p>5 分</p>	<p>6 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「10のまとまり」をつくとわかりやすい。 ・4を1と3にわけるといい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・$9 + 3$の計算の仕方を、ブロック操作をしながら、黒板で確認し本時の学習を振り返ってまとめる。
<p>つ な げ る</p> <p>10 分</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習で分かったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10のまとまり」をつくとわかりやすい。 ・「10のまとまり」ができるように、4を1と3に分けるといい。 <p>8 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で分かったことを発表させる。 ・次時は、$9 + 3$を学習することを知らせる。

(4) 本時の板書

たしざん

挿絵

9 + 4のけいさんのしかたを
かんがえよう。

ブロック

- 「10のまとまり」をつくれば、わかりやすい。
- 4を1と3にわけるといい。

ゆかさんは どんぐりを9こ、
ひろしさんは4こひろいました。
あわせて なんこ ひろいまし
たか。

ブロックず

9はあと1で10

1と3

←

10と3で13

しき $9 + 4 = 13$
 ことえ 13こ

10より
おおきいかず

9 10 11 12 13

「10のまとまり」
10といくつ

$$\begin{array}{r}
 9 \quad + \quad 4 = 13 \\
 \quad \quad \quad 1 \quad 3 \\
 + \\
 \boxed{10} \\
 + \\
 \quad \quad 1 \quad 3
 \end{array}$$

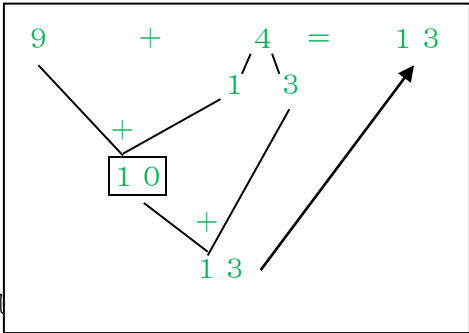
- ・ 9はあと1で10。
- ・ 4を1と3にわける。
- ・ 9に1をたして10。10と3で13。

(4) 板書計画

どんぐりは あわせて なんこ？ たしざん

$$\boxed{3} + \boxed{2} = 5$$

こたえ 5こ



9 + 4のけいさんのしかたをかんがえよう。

- ・ 9はあと1で10。
- ・ 4を1と3にわける。
- ・ 9に1をたして10。10と3で13。

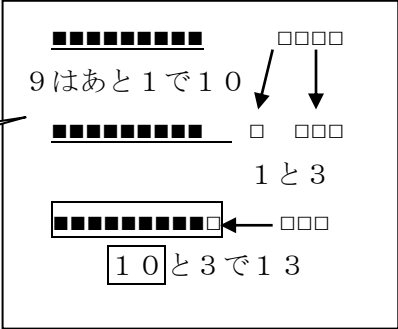
かあどをつかって たしざんのしきをつくろう。

$$\begin{array}{ll}
 \boxed{2} + \boxed{1} = 3 & \boxed{9} + \boxed{4} = ? \\
 \boxed{4} + \boxed{5} = 9 & \boxed{3} + \boxed{8} = ?
 \end{array}$$



10よりおおきくなる。

「10のまとまり」



(4) 板書計画

どんぐりは あわせて なんこ？ たしざん

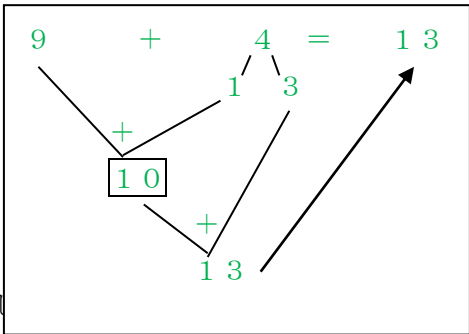
$\boxed{3} + \boxed{2} = 5$
 こたえ 5こ

挿絵

かあどをつかって
 たしざんのしきをつくろう。

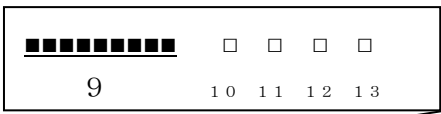
$\boxed{2} + \boxed{1} = 3$ $\boxed{9} + \boxed{4} = ?$
 $\boxed{4} + \boxed{5} = 9$ $\boxed{3} + \boxed{8} = ?$

10よりおおきくなる。



9 + 4のけいさんのしかた
 をかんがえよう。

- ・ 9はあと1で10。
- ・ 4を1と3にわける。
- ・ 9に1をたして10。10と3で13。



「10のまとまり」

